

にし西

■編集

西区役所総務企画課広聴係 〒063-8612 西区琴似2条7丁目1-1
TEL 641-2400 内線224~227 FAX 641-2405

◎西区広報番組「西区情報プラザ」FMラジオ三角山放送局76.2MHz
毎週月曜日午前11時～

◎西区協力番組「西区まちセン最前セン」同局毎週木曜日午前11時～

◎西区ホームページ <http://www.city.sapporo.jp/nishi/>

◎区民のページ 2009・3



まちのひと



第26回全日本中国語スピーチコンテスト
大学生の部 3位
北海道文教大学3年

とどめ やすこ
留目 康子さん (21)

全日本中国語スピーチコンテスト

(社)日中友好協会主催(文部科学省、中国大使館など後援)で毎年1回開催される中国語による弁論大会。高校生・大学生・一般の3部制。全国14ブロックの地方予選の優勝者の中から、さらに録音テープ審査で上位8人に残った者が全国大会に出場することができる。



■コンテスト当日の様子。留目さんのテーマは「ごちそうの学問」。食事はおどるのが当たり前という中国の習慣を取り上げた。

一月十一日に東京で開催された全日本中国語スピーチコンテスト全国大会で、発寒在住の留目康子さんが三位に輝きました。「本当にそんなレベルじゃないので恥ずかしいです」と控えめな留目さん。本番前こそ緊張したものの「スピーチを始めた後は落ち着いて楽しむことができました」と大会当日を振り返ります。留目さんと中国語の出会いには高校二年生の時。「大好きな中華料理を本場で食べてみたかったから」と本人いわく「不純な動機」で中国語の授業を選択しました。もともと語学が好きで英語を中心に勉

区民のページで取り上げてほしいテーマなど、皆さんからのご希望やご意見をお寄せください。はがき、ファクス、Eメール nishi@city.sapporo.jp で西区総務企画課広聴係上欄へ。

中国語、もっと話したい

強していた留目さんですが、中国語の面白さに引かれ、情熱は次第に英語から中国語に移っていききました。漢字が苦手だった留目さんは、友達から「日本語の漢字もろくに書けないのに、なんで中国語なの」と不思議がられたそうですが「中国語の漢字を覚えるのは面白くて」と笑います。高校卒業後、中国語を専門に学べる北海道文教大学に進学。平成十九年八月から一年間は、中国湖南省長沙市の湖南大学に留学していました。「日本に帰りたくなかった」と言うほど、中国で充実した日々を送った留目さんは「留学で自分は変わった」と考えています。「国際関係、日本の歴史や文化など、留学前は興味が無かったのに、今では自分から進んで調べるようになった」とのこと。外国に出て初めて、自国についてあまり知らなかったことに気付いたそうです。仲間内では「ふざけた人」で通っていた留目さんのこの変化に友達はみんな驚くのだとか。現在、大学三年生の留目さんは「営業職で中国語を生かせる仕事に就きたい」と就職活動にも熱が入ります。